

## 実績報告書

		兵庫県神戸市東灘区深江浜町36-7		株式会社ポオトデリカトオカツ 代表取締役社長 篠崎 由紀夫
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストア向け、弁当・おにぎり・サンドイッチの製造		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,436 t-CO <sub>2</sub>	3,377 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,662 t-CO <sub>2</sub>	3,584 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	6.9 %	-4.9 %	0.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-4.9 %	0.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備の入替やLED照明の入替等を行い、削減に努めております。</li> <li>・平成29年度途中から得意先の拠点整備による製造アイテム構成の変更により、フライヤー・オーブンの稼働率が上がりガス使用量が増加したため、温室効果ガスの増加につながった。設備の不稼働時間の停止に努めております。</li> </ul>
---

(2) 推進体制

<p>・工場設備担当者より1名、省エネ推進担当者を選任し、各部署への省エネ取組への落とし込みと、毎年度の設備投資計画に於いて、エネルギー負荷の高い設備の更新を省エネの観点を含め計画実施。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	東大阪工場	コード (1111) 省エネ活動の企画推進	工場の保全担当者を中心に、重負荷時の電気・ガスの使用量測定及び省エネ取組推進を行う。計測については27年度より取組開始 (検証中)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	東大阪工場	コード (1113) 機械設備運転管理	生産量に併せての台数制御、不要時の運転停止、電源OFFをこまめに実施し、現場巡回管理を行う。(平成27年度より実施)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 空調機器更新	加工場空調機 (5台) を省エネタイプへ更新 (全体で8台あり、5台更新済。残り3台)。平成27年度1台更新済み。平成28年度2台更新済み。平成29年度3台更新済み。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 空調機薬品洗浄	重負荷時期の前に空調機の薬品洗浄を実施。空調の効率改善を図る。(平成27年度、平成28年度、平成29年度実施済)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 冷凍機入替	原料冷凍庫・原料冷蔵庫冷凍機の入替 (省エネタイプへ入替)。(平成27年度1F原料冷蔵庫入替済み。平成29年度2F原料冷凍庫1台入替済み)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	東大阪工場	コード (1218) LED照明導入	照度管理が不要なエリアの照明器具をLED照明へ取替え省エネを図る。(平成27年度一部実施 全体の約2割、平成28年度一部実施 全体の約2割、平成29年度一部実施 全体の約2割)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者		住所		大阪府吹田市南吹田 4丁目20番1号		氏名		北越コーポレーション株式会社大阪工場 工場長 大町 伸一	
特定事業者の主たる業種				14パルプ・紙・紙加工品製造業					
該当する特定事業者の要件				レ		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者			
事業の概要				主に、紙加工品の製造、販売を行っております。					

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
2015年	4月1日～2018年3月31日(3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,447 t-CO <sub>2</sub>	3,150 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,607 t-CO <sub>2</sub>	3,298 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.1%	-0.6%	6.1%	7.6%
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.5%	5.9%	7.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>目標年度に見合う生産量があり、削減率の悪化要因とならなかった工場小集団活動で省エネをテーマに活動した成果と地道な照明器具のLED化で削減目標が達成された。</p>
--

(2) 推進体制

・推進組織としては、本社組織の環境統括部の下にエネルギー部会をおき、各工場に事務局・分科会を設けています。また、2001年に大阪工場はISO14001を認証取得し、環境マネジメントシステムに基づき、環境影響及びリスクの低減・予防、従業員教育に取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (5221) 老朽コンプレッサーを省エネタイプに更新	老朽化したコンプレッサーを省エネタイプに更新する (年間35.8t-CO2を削減計画) → (年間43.1t-CO2を削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1121) N o 1 貫流ボイラ燃料削減装置設置	N o 1 貫流ボイラに燃料削減装置を設置する事により燃焼効率アップを図る →テストを実施すると逆に効率が悪化した為、中止	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1121) N o 2 貫流ボイラ燃料削減装置設置	N o 2 貫流ボイラに燃料削減装置を設置する事により燃焼効率アップを図る →テストを実施すると逆に効率が悪化した為、中止	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114) フィルタープレス機のエア漏れ無し運転	フィルタープレス機の消費エア量の見える化で職場の意識が変わりエア漏れを無くした、効率運転が可能になった (計年間14.0t-CO2を削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 仕上倉庫 (旧平判選別) の照明器具のLED化 (合計年間4.6t-CO2を削減)	仕上倉庫 (旧平判選別) の照明器具のLED化 (合計年間4.6t-CO2を削減) 40wX2→16.3wをLED化25台運転 照明機器25台間引き	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 故障した照明器具をLEDで更新	不良蛍光灯器具を修理する際にを高効率のLEDに更新 (計13台) (合計年間1.6t-CO2を削減)	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 故障した照明器具をLEDで更新	不良蛍光灯器具を修理する際にを高効率のLEDに更新 (計21台) (合計年間1.7t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) トランスの整理で無負荷損の削減	3号抄紙機用トランスの電源遮断して他のトランスより送電を行い無負荷損をゼロにする 動力1000KVA, 電灯100KVA (合計年間5.2t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) インバーター	攪拌能力を保ちながら、回転を下げて省エネを計る2.2kwモーター (合計年間2.2t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 仕上倉庫 (旧平判選別) の電源ケーブル及び照明器具のLED化 (計70台)	仕上倉庫 (旧平判選別) の電源ケーブル及び照明器具のLED化 (計70台) 40w2灯用→40w1灯用相当LED (合計年間5.7t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) 既設の空調機を高効率タイプに変更	既設の空調機を高効率タイプに変更 圧縮機容量: 1.79kw 3台、2.36kw 1台 (合計年間3.9t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) 冷却水の有効利用	2Cコンデンサ冷却水を2Cの仕込み水に利用して、予-電力を削減する 予-装置合計5.87kwの停止 (合計年間14.9t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) 冷却水の有効利用	2Cコンデンサ冷却水をクッカー清水に使用して蒸気量の削減 冬場の清水7.8℃を冷却水32℃を利用して省エネ (合計年間0.00t-CO2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (1125) 低圧蒸気貯め及び長距離蒸気配管から放熱があ		2016 年度

14	レ	人工排熱	大阪工場	過剰な蒸気配管よりの放熱を削減	る。不用配管見直し且つ配管径を6Bより適正の2Bに変更。 (合計年間2.99t-CO2を削減)	～ 2016 年度
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 冷却水温度コントロールによる蒸気量の削減	2Cコンデンサ冷却水温度コントロールによる蒸気量の削減 冷却水に捨てていた熱量の回収となった (合計年間62.53t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 老朽照明のLED化と間引き照明	不良蛍光灯器具を修理する際に高効率のLEDに更新 (合計年間2.5t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 老朽照明のLED化と間引き照明	仕上げ室2F(旧平判包装機)LED照明への交換,80台を40台に削減、LED化 (合計年間1.7t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 老朽照明のLED化と間引き照明	仕上げ室1F(旧2、3号ヤード)LED照明への交換,128台を102台に削減、LED化 (合計年間6.3t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 老朽照明のLED化と間引き照明	事務所LED照明への交換,55台を52台に削減、LED化 (合計年間3.2t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) 大きな老朽設備を適正容量で更新	最終ポンプ老朽化に伴い適正容量で更新,30kwより7.5kwポンプ (合計年間1.9t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1216) エネルギー効率の良いエアコンに更新	エアコン更新による省エネ(8台更新),エネルギー効率の悪いエアコンを省エネタイプのエアコンに更新 (合計年間15.8t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2123) エコドライブの協力依頼	委託先運送業者トラックのエコドライブ実施の協力を依頼する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2124) 効率配送のための出荷品手配	委託先運送業者に効率配送となるに出荷手配を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2124) 効率配送のための客先直送便の増加	効率配送のために中間倉庫運用を減らして客先直送便の増加を行う	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市木材町17-2	氏名	ホクシン株式会社 代表取締役社長 入野 哲朗
特定事業者の主たる業種		12木材・木製品製造業（家具を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		中質繊維板（MDF）の製造を行っており、工場及び事務所は1箇所（届出者住所と同じ）のみとなります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	33,343 t-CO <sub>2</sub>	35,972 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	34,843 t-CO <sub>2</sub>	37,684 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率（排出量ベース） %	%	%	%
		削減率（原単位ベース）	3.0 %	-2.9 %	4.3 %
削減率（平準化補正ベース）		-	%	-3.3 %	-0.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（年間生産量 トン）
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
x	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>総電力の40%以上を占めるチップ解繊工程において、原料チップ変更に伴い解繊プレートの交換周期を短くしたことで、チップ1トン当りに使用する解繊電力量を昨年度より2%削減できた。また、生産工程の簡略化によりエネルギー使用量を削減することができた。</p>
--

## (2) 推進体制

ISO推進委員会で、ISO14000 に基づいた環境マネジメントシステムを運営し、全社で温暖化対策の取り組みを促進する。実際の取り組みとしては、各部署で目標値及び改善計画を立案、実施し、定期的開催される省エネルギー委員会にて報告を行う。

## (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

## 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1126) 力率改善コンデンサの設置	力率改善コンデンサ設備を設置する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1214) コージェネレーション設備の高効率稼働	コージェネレーション設備における発電効率および熱効率の向上、運用の見直しにより総合的な高効率化を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1126) エアーコンプレッサーの高効率稼働	エアーコンプレッサーの使用量低減や圧力損失低減策を講じて吐出圧力の低減を図る。また、老朽化に伴う順次更新を計画する。28年度は1台更新を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	本社工場	コード (1126) インバータ制御化	ファンやポンプの回転数制御化による消費電力の削減を図る。28年度は集塵機のファンのインバータ化を実施した。	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場	コード (1123) 蒸気ドレンや廃熱の有効利用	蒸気ドレンや廃熱の熱源を有効利用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	本社工場	コード (1126) 変圧器の高効率稼働	変圧器を高効率の変圧器に順次更新	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	本社工場	コード (1113) 製造ラインの生産性向上	生産ラインの稼働効率および生産性の向上を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	本社工場	コード (1111) 省エネルギー委員会の見直し	省エネ委員会の組織および運用を定期的に見直し、適切にエネルギー使用の合理化活動を実施できる体制とする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	本社工場	コード (1216) 空気調和設備の更新	老朽化した空気調和設備を計画して更新する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 調湿工程の簡略化によるエネルギーの削減	調湿工程を簡略化し、蒸気および電気エネルギーの削減を図る。未調湿による生産テストを実施、未調湿に向けたテスト機を実装した。	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) ワックス変更から保温用熱エネルギーの削減	溶融ワックスタンクの保温蒸気削減	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 接着剤合成に必要な電気・エネルギーの削減	接着剤内製化から外部購入にシフト	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 解繊電力エネルギーの削減	木材チップの種類変更による電力増を抑える為、木材チップのオーバーサイズをなくす設備を検討。	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1199)	解繊装置への水混入量を監視しできるだけ削減	2016 年度

14		人工排熱	本社工場	解織装置への水混入量を監視	することで、後工程での乾燥エネルギーを削減する。	～ 2017 年度
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)	
1			コード		年度	
					GHG 排出	～
					人工排熱	年度

(4)その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市旭区赤川1丁目11番8号	氏名	北港観光バス株式会社 代表取締役 坂本 和也
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に大阪府下での一般貸切・一般乗合・特定旅客運送事業を行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,197 t-CO <sub>2</sub>	4,668 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,197 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	0.2 %	-6.1 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>省エネ運転の徹底は、もちろん実施致しましたが、平成29年度の新車の購入は8台と売却車輛もあり総台数は前年より3月末現在6台減っておりますが、燃料の使用量は1722KLより1805KLに増えております、これは年間走行距離がH26年度 5328701kmに対してH29年度 6026087kmと増えていることが影響していると考えます。原因は、H28年7月より乗合の営業所を増やし、そこで毎日現在7台の路線バスが運行していることだと思われま。</p>
<p>車両の老朽化やアイドリング等の影響も考えられます。特にアイドリングに対する指導を進めてまいります。</p>

(2) 推進体制

運輸安全マネジメント推進メンバー及び運行管理者の研修会を実施し、ドライバーへの指導力を向上させる。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121)	最新規制車及び低燃費車への代替推進  低燃費車の導入	2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123)	アイドリング時間の適正化を指導  エコドライブ	2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	兵庫県川西市1丁目1番24号	氏名	ボルツ株式会社 代表取締役社長 伊藤 聡
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ボルツ株式会社は大阪府能勢工場、兵庫県川西工場、岐阜県岐阜工場の3事業場で構成され主に自動車メーカーに製品を出荷している。そのうち能勢工場ではエンジン用特殊ボルト成形、熱処理。ピストンピン、の切削、研磨。パイプの曲げユニオンろう付け品などを生産している。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,640 t-CO <sub>2</sub>	4,176 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	4,999 t-CO <sub>2</sub>	4,494 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)	
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%	
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	-21.2 %	-26.6 %	-25.2 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	%	-20.8 %	-26.7 %	-25.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 能勢工場の売上高 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H29年のエネルギー使用量原単位はH25年に比べ11.9%に増加しているが、実際の原油換算エネルギーはH25年の2,530KLから2,019KLと5年間で20%減少してきた。エネルギー使用量原単位悪化の理由は、①納入先が、アジア現地生産車両のエンジン部品を円高対策の為、現地調達とした事②国内では、消費税増税による駆け込み需要が一巡し、軽自動車の販売が低迷した事上記2つにより売上高がH25年比67.1%と激減したにもかかわらず、減産に対応する工場の固定比の</p>
<p>改善が進んでいない所にある。そこで①2016年8月に他工場より切削工程を能勢工場に移動。能勢工場の生産増と効率向上を進める事 ②能勢工場での熱処理に統合する事で効率を上げていく。</p>

(2) 推進体制

兵庫県、岐阜県の3工場を統括した推進体制構築
------------------------

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1111) 管理体制の整備	部門別の削減目標管理体制を整備し全員参加でエネルギー削減に取り組む	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1112) 多消費設備のエネルギー管理	熱処理炉、ろう付け炉、コンプレッサーなどのエネルギー多消費設備のエネルギー計測を行い温室効果ガス削減効果の高い対策に繋げる	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1113) 生産効率の向上	日常点検、月例点検を製造部オペレーターが実施することで工程ロス、歩留りロスを低減し生産効率を上げる	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1114) 保守及び点検の適正実施	日常点検、月例点検を製造部オペレーターが実施することで工程ロス、歩留りロスを低減し生産効率を上げる	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1122) 製造工程の改善	工程改善による熱処理炉の運転時間短縮、休日や夜間の設定温度低下	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	能勢工場	コード (2114) 運転管理・保守点検の適正実施	車両ごとの燃費や走行距離記録、日常点検の実施などで維持管理を強化する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	能勢工場	コード (2113) エコドライブの実践	エコドライブの実践。定期便の見直し削減。製造工程の設備稼働率向上による臨時便の削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区霞が関三丁目3番2号	氏名	合同会社ホワイトライズインベストメント 代表社員 一般社団法人福祿寿キャピタル 職
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		オフィスビルなどの不動産賃貸		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,537 t-CO <sub>2</sub>	6,869 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,928 t-CO <sub>2</sub>	8,085 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	3.1%	0.7%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	3.3%	0.9%	9.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 延床面積 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>昨年度はビル全体の入居率の上昇に伴って電力使用量が増加した28年度に比較して、電力使用量の削減率を引き下げる事は出来ましたが、ビル全体の個別空調更新工事が中途の為、それを補う為のビル全体空調の夜間延長運転や冬季の寒さによる電力使用量の増大により、基準年度の2.1%の削減率に留まりました。(エネルギー総使用量ベースもしくは原油換算量ベース) 今後は個別空調機の更新や熱源機器の更新等を更に推し進め、エネルギーの削減を図りたいと思います。</p>
---

(2) 推進体制

大阪国際ビルディングでは省エネルギーに関して電力量の削減の効果が大きいので、防災センターにてデマンド監視による使用電力の削減や空調機器等の効率的な運用を通じて、更なる不要な使用エネルギーの削減や設備の更新等の提案による省エネを推進致します。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪国際 ビルディング	コード (1113) 各設備の運用改 善	エネルギー管理基準の適宜見直しを行うと共 に、適切な運用を実施し、エネルギー量を削減 する。(照明器具及び空調機不要分停止) 53t-CO2 (87,840kWh) 削減	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪国際 ビルディング	コード (1216) 空調設備の更新	空調機及び空調機用冷温水ポンプのモーター (インバーター制御に変更)の更新。また、熱源 設備の更新(冷温水使用からヒートポンプ へ)。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策
